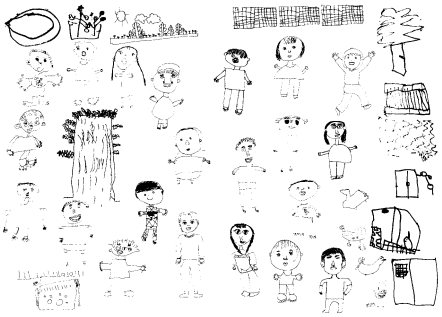
園だより



令和８年３月１日

社会福祉法人新田保育園
園長　大西　陽子

『共に育つ存在』

春の足音が少しずつ近づいてきました。3 月 13 日は卒園式です。今年も 18 人の子どもたちが、新田保育園を巣立っていきます。玄関前にぞう組の子どもたちの写真を飾ります。生まれたころの写真と現在の写真です。見ているだけで笑顔になり、子どもたちとの思い出が蘇ります。

卒園文集のあとがきに、ぞう組担任の後藤、山内が思いを綴っています。（あとがきより一部抜粋）

ぞう組の１年は毎日色々な出来事があり、どう保育するか、何を伝えるか朝と夕方の通勤はみんなのことを考える時間でした。私にとって楽しい時間です。若い頃は何が正解なの？どうすればいいんだろうと悩み、落ち込むことが多かったのですが、今はみんなのことを考える時間は楽しくて幸せな時間だと感じています。そう思うようになったのは、経験を積んだり、勉強をしたり、他の保育士の保育を見て学んだことはもちろんですが、みんなの姿から学んだことが大きいです。みんなの素敵なところは、友だち同士を比べず認め合っているところです。自分自身は友だちと比べてしまうこともあるけれど、この子はこういうところがあるよねと受け入れたり、一人ひとりの違いを認めているみんなの姿や考えは学ぶことがとても多かったです。みんなで考えられるクラスだから、もっと頼ろうと思うようになりました。みんなの姿が保育の見方を変え、一緒に考えてつくる保育に変わっていきました。みんなは人の心を動かす力を持っています。みんなに出会えたこと、担任になれたことを嬉しいなとつくづく思います。（後藤）

これから生きていく中で、難しいこともやりたくないこともあるけれど、やってみたらできた、やってみると面白かったということがあるかもしれない。だから、いろんなことに挑戦してほしい、試してみてほしいと思います。（中略）みんなには、話す力、考える力、思う力が備わっています。小学校に行っても挑戦し続けてください。そして、興味あることを探求し、自分の好きなことを見つけてください。楽しいこと、好きなことは、生きる原動力になります。困ったときは仲間がいるよ。一緒に考えてくれるよ。新田保育園で過ごした日々を思い出せば、きっとどんなことも乗り越えられるはず！（山内）

ぞう組さんが生まれたころ、世界は見えない恐怖の中で当たり前だった日常が一変しました。顔はマスクで覆われ、人との関わりは分断されました。登園自粛の日々。「この子たちの今は今しかない。コロナ禍で、子どもたちの育ちと関わりをどう保障していくか」先生たちは必死で考えました。「どんなに辛くても、みんながいたから頑張れた。あきらめなかった。」と、今心から思います。それはこれからも変わりません。

卒園おめでとう。そして私たちに希望をくれてありがとう。　濱本昌子

～お知らせ～羽鳥千春保育士・永沼由羽平保育士は、３月をもって退職いたします。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
		頭シラミチェック	誕生会・写真の日	避難訓練	卒園式練習（５歳児）	不審者対応訓練				健康体育（３・４・５歳児）	卒園式練習（４・５歳児）	卒園式準備	卒園式					健康診断（０歳児・他）	幼児遠足・保護者の会総会	春分の日			新年度準備週間	→				保育運営方針会議			